



ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

9月中旬の夜8時頃、南の空高く《夏の大三角》が昇っています。大三角の頂点の1つ「わし座」のアルタイルの近くには、とてもかわいらしい星座「いるか座」があります。4等星以下の星ばかりですが、いるかの頭を形づくる小さな菱形は、とても自立つ星の並びで見つけやすく、日本でも古くから「菱星」などと呼ばれてきました。また、南の低い空に目をやると、夏の星座の「いて座」が見え、その弓を引く腕の辺りには、木星と土星が並んで輝いています。「いて座」の東側には、初秋の星座として有名な「やぎ座」が昇っています。「やぎ座」の星は暗いため大変見つけにくいですが、《夏の大三角》のベガとアルタイルを結んでそのまま南に伸ばした、逆三角形の星の並びが「やぎ座」です。そして、東の空には《秋の四辺形》が登場し、少しずつ秋の星空へと移り変わっていくようです。



星図はステラナビゲーター11を使用して作成

★ 火星を観察するチャンスです！

夜が更けると東の空では、急に明るさを増した火星が自立ってきます。4日から7日頃には、火星の近くを下弦前の月が通りすぎますが、火星は月の光に負けず、赤く輝いて見えます。火星は10月6日、地球に準大接近するため、ますます明るさを増しますので、肉眼だけでなく、天体望遠鏡で観察するチャンスです。



★ 木星と土星に近づく月の動きを観察しよう！

日暮れから夜中にかけて、南の空では木星と土星が並んで輝いています。木星は強く輝き、土星は穏やかな明るさで、輝きの違いが興味深い眺めです。24日から26日にかけては、月が木星と土星の近くを通りすぎ、25日は木星の下に最接近。次の26日は、月が東へ動いて、木星、土星と並びます。月の動きを観察してみましょう。

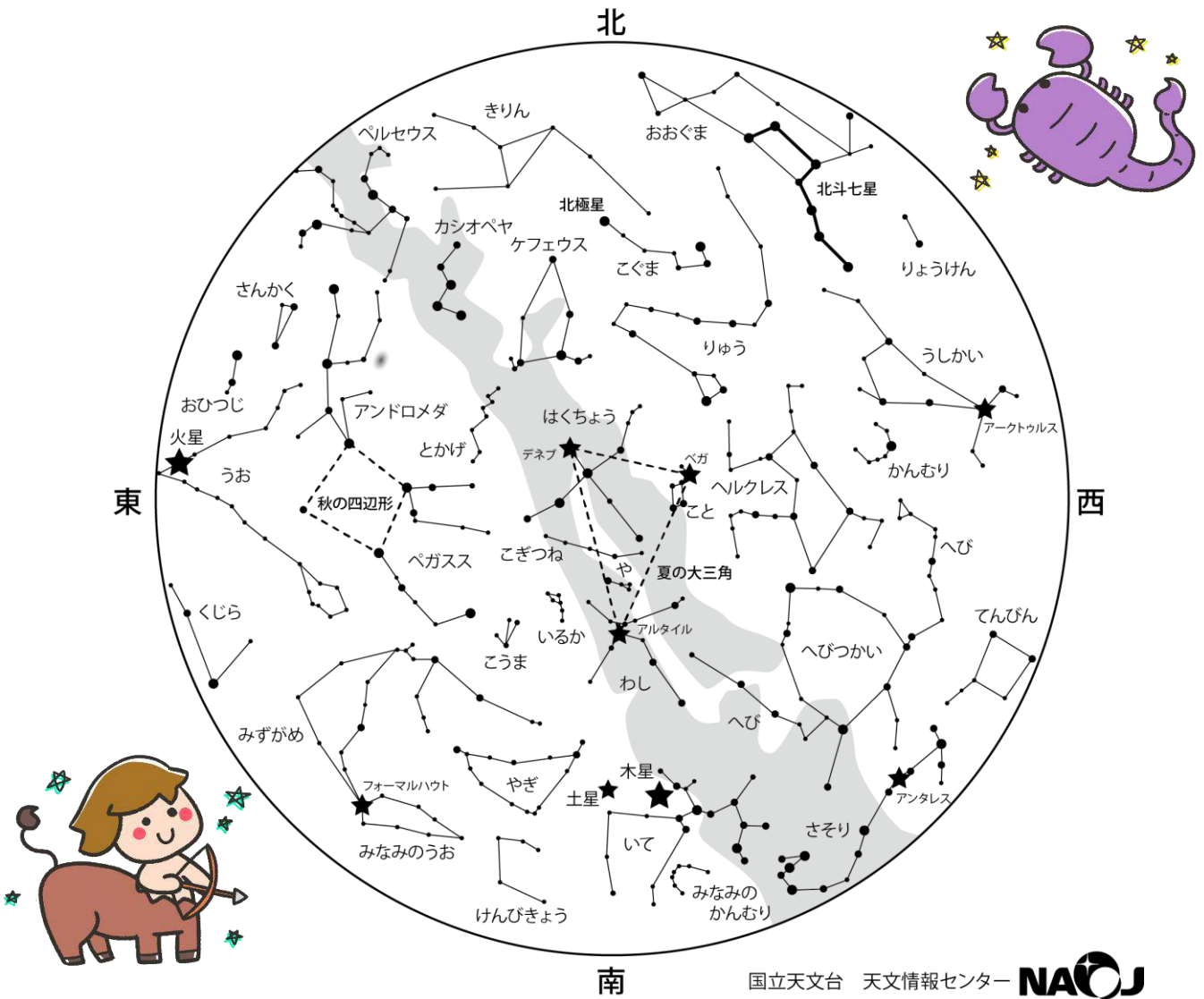


★ 9月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 9/7(月)、14(月)、16(水)、23(水)、24(木)、28(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

9月上旬午後9時30分頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 9月上旬の主な天文現象

2日(水) ○ 満月	10日(木) ● 下弦、月がヒアデス星団に接近
3日(木) 準惑星ケレスが衝	12日(土) 海王星が衝
6日(日) 月と火星が接近	13日(日) 金星とプレセペ星団が接近
7日(月) 白露	14日(月) 月と金星が接近

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ9/1~15) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 9月11日(金) [見やすさ ◎]	4:54 北西	~	5:00 東南東
◇ 9月12日(土) [見やすさ ◎]	4:06 北北西	~	4:12 東南東
◇ 9月13日(日) [見やすさ ◎]	4:55 西北西	~	5:01 南南東
◇ 9月14日(月) [見やすさ ◎]	4:09 西北西	~	4:14 南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。